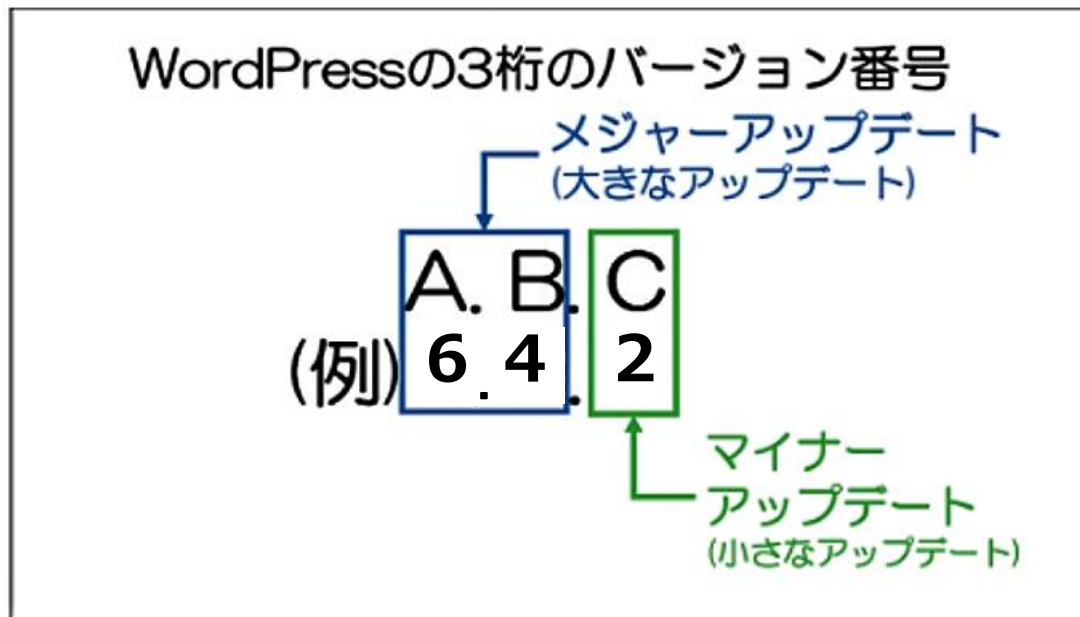


テーマ別研修会 (2024/3/4)

WordPress 6.4.2 および 最新プラグインについて

WordPressのバージョン



項目	メジャーアップデート	マイナーアップデート
バージョン番号	A,B,Cのうち最初の左2桁 (A,B) のアップデート (例) 6.3→6.4のアップデート	A,B,Cのうち3桁め (C) のアップデート (例) 6.4.1→6.4.2のアップデート
主な変更内容	新機能の追加 仕様変更 セキュリティ強化 不具合修正	セキュリティ強化 不具合修正
変更範囲	大きい	小さい
更新頻度	4~5カ月に1回程度	必要に応じて随時

松愛会のWordPressのバージョンアップとプラグインの見直し

導入年月	本番サイト	PREサイト	プラグイン数
2018年 6月12日	WordPress 4.9.6	WordPress 4.9.6	
2018年12月16日	WordPress 4.9.8	WordPress 4.9.8	
2019年12月18日	WordPress 5.3	WordPress 5.3	82 (サイトネット 10)
2022年11月15日	WordPress 5.7.2	WordPress 5.4.1	
2022年11月16日	WordPress 5.7.2	WordPress 6.0.2	
2023年 2月 8日	WordPress 6.0.2	WordPress 6.0.2	59 (サイトネット 11)
2023年12月21日	WordPress 6.0.2	WordPress 6.4.2	
2024年 2月21日	WordPress 6.4.2	WordPress 6.4.2	40 (サイトネット 11)

今回のプラグインの検証・見直しの結果、19個の削減が出来ました。
ご協力ありがとうございました。

WordPressバージョンアップ推移

- 2014年のver.4.xでWordPressのベースができる
- 2018年のver.5.xで万人が、複雑な画面作成を可能するブロックエディターの導入
- 以降、ブロックエディターの強化は継続中
- 近年のWordPressの頻繁のバージョンアップでも動かなくなることはない
- 現在の計画では、2024年3月にバージョン**6.5**、2024年7月にバージョン**6.6**、2024年11月にバージョン**6.7**をリリースする予定です

◆参考資料 <https://ja.wordpress.org/download/releases/>

● **WordPress 6.4** (23/11/7リリース) 【6.4~6.4.3】 6.4.2は24/1/25
WordPress 6.4は、2023年3回目となるメジャーリリースです。新たな機能とデザインツール、UIの改善、バグ修正、その他小さな変更点が多数もたらされています。軽量で多機能なデフォルトテーマ「Twenty Twenty-Four」も新たに導入され、**数々のパターンとテンプレートが使用できる**ことから、特定の用途に合わせて柔軟にカスタマイズができる。

ブロックエディターもほぼ完成といわれている。

<https://wordpress.org/download/releases/6-4/>

WordPressバージョンアップ推移

● WordPress 6.3 (23/8/8リリース) 【6.3~6.3.3】

- ① **サイトエディター**ですべて完結 (テーマ「AGENDA」では未サポート)
- ② ブロックエディタの2つの新しいブロック
- ③ パフォーマンスが向上~サイトの読み込み時間が大幅に改善
- ④ 画像のアスペクト比を選択する
- ⑤ コアで19のバグ修正、ブロックエディターで22のバグ修正、そして8つのセキュリティ修正

<https://wordpress.org/download/releases/6-3/>

● WordPress 6.2 (23/3/20リリース) 【6.2~6.2.4】

- ① Gutenbergプロジェクトのロードマップにおけるフェーズ2最後のメジャーリリースとして計画されたもの。
- ② 292以上の機能拡張と394のバグフィックスが含まれています。

<https://ja.wordpress.org/2023/03/30/dolphy/>

● WordPress 6.1 (22/11/1リリース) 【6.1~6.1.5】

- ① 350以上のエディターの機能強化および350のバグ修正が含まれています。
- ② ブロックエディター~Gutenbergプラグインの機能がマージされました
- ③ **データベースのパフォーマンスが大幅に改善**
WP_Queryのデータベースクエリがキャッシュされるようになったことにより、データベースのパフォーマンスが大幅に改善されました。

<https://webgaku.net/jp/wordpress/wordpress-6-1/>

WordPressバージョンアップ推移

- **WordPress 6.0** (22/5/24リリース) 【6.0~6.0.7】

- ① 500以上の機能強化と400以上のバグフィックスが行われました。

- ② **ブロックエディター~新しいブロック**が追加

<https://webgaku.net/jp/wordpress/wordpress-6-0/>

- **WordPress 5.9** (22/1/25リリース)

- ① フルサイト編集 (Full Site Editing : FSE) 機能を導入
フルサイト編集とは、ヘッダーやフッター・サイドバーなどサイトのすべてのパーツをブロックエディターで編集できる機能

- ② ログイン画面での言語切り替え

- ③ **画像の遅延読み込み**がWordPress 5.5から導入

- ④ WordPress 5.9.x~100件以上のバグ、3つのセキュリティ問題を修正

- **WordPress 5.8** (21/7/20リリース)

- ① WebP (ウェッピー) 対応~Googleが開発した新しい画像フォーマット

- ② **IE 11のサポート終了**

- ③ **ウィジェットにもブロックエディターが採用**

- ④ **メディアライブラリの無限スクロールが廃止**

- ⑤ WordPress 5.8.x~100件以上のセキュリティ問題とバグの修正

プラグインについて

● WordPressの「プラグイン」について

WordPressにおける『プラグイン』は『WordPressに新しい機能を追加するための仕組み』です。WordPressの人気の高い理由の1つに、プラグインを利用できることがあります。プラグインを使うと、WordPress本体やテーマには備わっていない機能を簡単に追加することができます。セキュリティ面に気をつけながら、高性能なプラグインを活用して、ブラウザ・CMSをパワーアップさせます。

● WordPressの『公式ディレクトリ』から選ぶ

<https://ja.wordpress.org/plugins/>

ここには安全性に関するガイドラインをクリアしたプラグイン6万件が登録されています。WordPressの管理画面から無料でインストールできます。ただ公式でも長時間更新されていないものはリスクがあります。

● WordPressを利用での考慮点

- ・国内外で発見されるWordPress、プラグインの脆弱性を確認しておく
- ・WordPressを常に最新バージョンに保つ
- ・テーマ・プラグインも常に最新バージョンに保つ
- ・プラグインのインストールは最小限にする（パフォーマンス、メンテ、バグ）

松愛会のWordPressおよびプラグインのバージョンアップの考え方

1. 実施タイミング

セキュリティの脆弱性およびバグ対応の面から出来る限り、WordPressおよびプラグインは最新バージョンを導入していきます。但し、検証作業の工数がかかるため、随時ではなく定期的に実施します。

具体的には、WordPressの3桁のバージョン番号で、最初の2桁のメジャーアップデート番号の2桁目が偶数で、3桁目のマイナーアップデート番号が2のタイミング時にバージョンアップを実施していきます。

例) WordPress 6.0.2 (23.2.8に実施) ⇒ 6.2.2 (実施せず) ⇒ 6.4.2 (今回)

2. 本番サイトとPREサイト

WordPressおよびプラグインのバージョンアップについて、PREサイトで新しいバージョンをまず導入し、各プラグインにて問題がないかを検証した上で、本番サイトでバージョンアップを行う。

本番サイトとPREサイトでのWordPressおよびプラグインのバージョンは基本、同じものとしていく。

3. 導入可否検証

プラグインの最新バージョンの導入可否検証は、導入している支部からプラグイン主幹支部を決めて、検証をお願いする。その結果をHP委員会で審議して、最新バージョンの導入可否を決める。

松愛会 新規プラグインの導入について

1. 新規プラグインの導入は、支部の申請に基づき本部HP委員会にて導入可否を審議する。

新規プラグイン申請は「**プラグイン導入のルールについて (HP20230202)**」に拠る

2. HP委員会のプラグインの導入可否は、次の事項で決めていく

- ① 全支部が使用可能なもの
- ② マルチサイト対応されているもの
- ③ WordPressの公式ディレクトリに登録され、更新が定期的に行われ、使用ユーザ数も多いもの
- ④ 既登録されたプラグインと干渉し合い、不具合が発生しないこと（同じ機能のものは、絞る）
- ⑤ セキュリティ面で安全であること

今後のプラグインの整理削除のお願い

➤ 同機能の重複をやめる

1. Organize Media Folder（メディアのフォルダー管理）へ切り替え （Organize Media Library by Foldersの後継プラグイン）

➡ 本部で課題検討中

- ① Extend Media Upload（サイトネットワーク）共用での警告あり
- ② メディアファイルの大容量使用の支部は稼働せず
- ③ 当面Organize Media Library by Foldersを使用（警告あり）

2. Enhanced Media Library（カテゴリー管理）の削除 Media Library Categories Premiumに統一 5支部にお願い ➡ カテゴリーの再登録が必要

➤ 削除可能性のあるプラグインの検討

- ① Flamingo（9支部対象）
- ② Slimstat Analytics（3支部対象）

ブロックエディタについて

➤ ブロックエディター（Gutenberg : グーテンベルク）

- ブロックエディターはWordPress5.0から従来のクラシックエディターに代わり、標準搭載され、WordPressのバージョンが上がる毎に進化
- 文章や画像などをブロックという単位で管理し、レイアウトを直感的にデザイン編集でき、高機能のため、Html&CSSが不要となる
- ブロックエディター対応テーマも増えている（AGENDA?）

➤ 松愛会HPとして

- クラシックエディターの動向に注目（2024年まで?）して、松愛会での導入方向で検討（次世代のために）
- 今後の新規投稿者拡大するにはブロックエディターの使用がよい
- 当面は本番サイトもブロックエディターとクラシックエディターの切り替えを可能にして、投稿者が任意に選択して使用する

（現状は、PREサイトは全支部が切り替え可能、本番サイトで栃木支部、横浜東西支部、枚方南支部が導入）

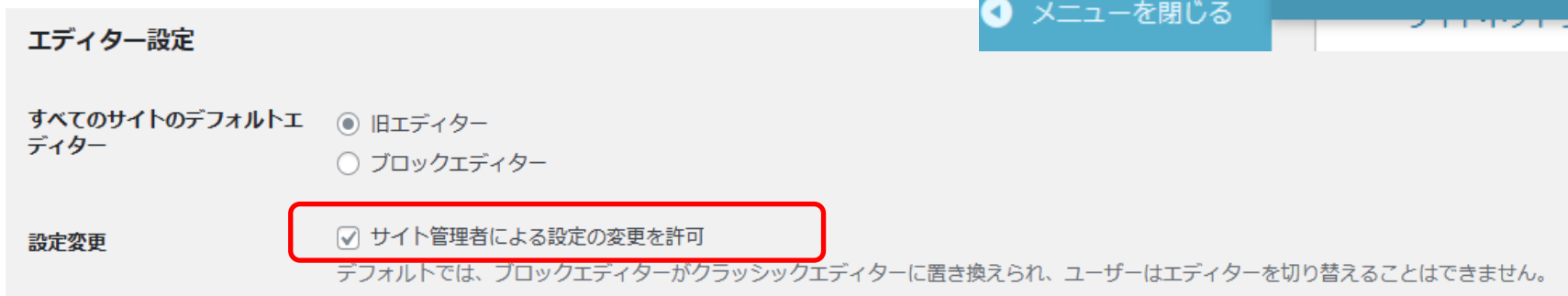
◆参考資料

<https://learn.wordpress.org/>

<https://wp-exp.com/blog/block-editor/>

ブロックエディターの対応（投稿者毎の切り替え方法）

1. プラグインClassic Editorは、通常はサイトネットワーク設定で非表示
➔ **特権管理者(本部)**でサイトネットワーク設定でエディターの切り替えを可能にする



2. プラグインClassic Editorの設定で、支部の投稿者が任意にエディターの切り替え選択が可能。
デフォルトのエディターはクラシックエディターとする。同時にプラグインClassic Widgetsはサイトネットワークから外し、任意に有効化する



3. 本番サイトでのエディターの切り替え可能を希望する支部は本部に申し込む。
現在は栃木支部、横浜東西支部、枚方南支部は導入

エディターの切り替え

■ デフォルトエディターの個人設定が可能

【ユーザ】 ➡ 【プロフィール】 で設定



■ 投稿でのエディターの切り替え

切り替えの方法はどちらでもよい



最新のプラグインについて

▶ 本番サイトプラグイン一覧（別資料で説明します）

別資料：「本番サイト（WWW）プラグイン一覧 240221」

別資料：「導入プラグイン紹介 240221」

● プラグイン導入に潜むリスクと注意点について

1) 導入は自己責任で導入し過ぎに注意

- ✓ WordPressのサーバーが重くなり、ページ速度が遅くリスクがあり
- ✓ 使わなくなったプラグインは無効化、削除する
- ✓ プラグインのバージョンは出来る限り最新に更新をおこなう

2) ウイルスやハッキングに注意

- ✓ 安全面から見るとプラグインの使用は出来るだけ抑える
- ✓ 使うなら常に最新のセキュリティ・リスクの情報を入手してチェックを怠らないのが鉄則。

3) 利用するテーマとの相性を確認

WordPressおよびプラグインのバージョンアップのルールについて

2023.02.02

1. WP本番サイトのバージョンアップの変更
2. プラグイン管理方法の変更
3. サポート方法の変更

ルールについて

➤ WP本番サイトバージョンアップ方法

- ① WordPressおよびプラグインは最新バージョンを定期的に導入。
具体的には、WordPressの3桁のバージョン番号で、最初の2桁のメジャーアップデート番号の2桁目が偶数で、3桁目のマイナーアップデート番号が2のタイミング時にバージョンアップを実施していく
- ② 本部HP委員会承認の上でPREサイトのWS&プラグインのバージョンアップを実施
- ③ PREサイトで主幹支部のプラグイン検証確認後、本番サイトのWS&プラグインのバージョンアップを実施
- ④ PREサイトおよび本番サイトのWSバージョンアップはFS社のみが実施

➤ プラグイン管理方法

- ① 既登録プラグインは支部で使用可否を判断し「有効化/無効化」の切り替え実施
- ② プラグイン「有効化/無効化」の切り替えは本部HP委員会への連絡は不要
- ③ プラグインのインストール・削除はFS社に加え、中村委員が担当

➤ サポート方法

- ① 問い合わせはML(hpcontact@shoai.ne.jp) に統一
- ② Q&AはWP、プラグイン：中村委員が担当。状況で本部HP委員全員が担当

- *プラグインは、サイトネットワーク管理者が管理し、登録・削除を行う
- *登録されたプラグインを使用する可否判断は、支部サイト管理者が行う

WP導入支部 支部サイト管理者(支部HP責任者)

既登録（他支部使用中）のプラグインを使用の場合

新規登録（他支部未使用）のプラグインを使用の場合

支部サイト管理者

支部サイトのプラグインを変更
(有効/無効の切り替え)

1 不要
~~サイトネットワーク管理者へ連絡~~

WPサポートページ
<https://www.shoai.jp/hp-3/>

WordPress
松雲会マルチサイトWP
プラグイン関連はこちら

WordPress
松雲会マルチサイトWP
プラグイン共有使用申請
フォームはこちら

WordPress
松雲会マルチサイトWP
新プラグイン使用申請
フォームはこちら

WordPress
松雲会マルチサイトWP
プラグイン一覧 PDF (PW有)

指定フォーム

指定フォーム

- ◇ 支部名 (必須)
- ◇ 名前 (必須)
- ◇ メールアドレス (必須)
- ◇ VerUp/トラブル対応担当の承認 (必須)
 当該プラグインのVerUp/トラブル対応の担当を承認します
- ★ --- 【新規採用プラグインについての記入です】 ---
- ◇ プラグイン名
- ◇ プラグインの説明

指定フォーム

指定フォーム

- 支部名 (必須)
- 名前 (必須)
- メールアドレス (必須)
- プラグイン名
- プラグイン
 有効に変更済み 無効に変更済み
- 変更したサイト
 PREサイト 本番サイト 両方
- 変更理由

1 定期的にHP委員会にて確認

サイトネットワーク管理者

プラグイン一覧表に掲載

PREサイト申請

本番サイト申請

本部HP委員会

PREサイト
登録

本番サイト
登録

サポート方法

